陸上クラブ紹介 No.6

広徳中学校陸上部

我が広徳中学校陸上競技部の部訓は「勝っても負けてもその人の気持ちが解り合える」で、合い言葉は「闘魂」です。大会で良い結果が出せなくても同じ部員として、その人の心や思いをくみ取り、助け合い、また、同じライバルとして日々の練習に励み、さらに自分の力を鍛え、十分に発揮できるように頑張ると言う意味が込められています。

僕達の学校は、開校して１０年を迎えたばかりの新しい学校です。県大会や北信越大会には数多くの選手が出場していますが、開校７年目の平成１３年に女子三種競技（小林恵・現長野商業）で初の全国大会に出場を果たしました。また、翌１４年には女子リレーが長野県代表で全国大会へ出場するなど、どちらかというと女子の方が強い印象でした。昨年あたりから男子も、県中学駅伝大会では２年連続で準優勝をしたり、男子２名（広沢貴行・佐々木健太）が夏の全国大会に出場したりするなどの活躍が見られるようになり、男女がお互いに良い意味で競い合って頑張っています。夏場はパート別で、短距離、長距離、フィールドに分かれて練習をしています。また、冬場は、全員一緒に長い距離を走ったり、サーキットトレーニングや基礎練習等で体力づくりを中心にして、自己の力を高めています。休日などは東和田の競技場や南長野運動公園に行って練習をすることが多いので、見かけたら是非励ましの声をかけてください。

さて、来年は開校１１年目、今新たな節目を迎え、僕達がやらなければならないことは、先輩達が教えてくださった伝統をしっかりと受け継ぎ、後輩達にきちんと継承していくことです。特に部活に対する心構えとして、大きな声でさわやかな挨拶で始まる活動を大切にし、切磋琢磨する活動で、日々の努力を積み重ねていきたいです。

来年こそは「全国大会で初の入賞者」を出したり、「駅伝で全国大会に出場」することを最高の目標として、部活動に取り組みます。部員全員が一致団結して頑張りますので、皆様是非応援をよろしくお願いいたします。

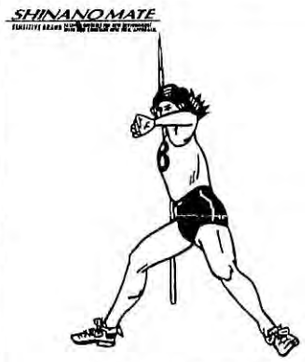
部長　西村慎太郎

新潟県中越地震義援金のお礼

長野市陸上競技協会　理事長　浦野義忠

今回の新潟県中越地震の被災に際しまして、長野市陸上競技協会といたしまして会員に義援金のお願いをすることになりました。新潟県とは以前から対抗戦をはじめ北信越中学・高校・大学陸上選手権等大変お世話になっております。被災されました皆様方には早く元気に立ち直ってくださることを願いまして、災害支援をお願いしたわけでございます。ご支援いただきました皆様には、快くカンパをいただき、本当にありがとうございました。義援金62,000円は会長と信濃毎日新聞社に手渡し、紙面に掲載していただきました。ご協力いただきました皆様には、書面にて報告させていただきます。（順不動・敬称略）

依田良春・小口正行・古澤久四郎・伊藤利博・依田邦夫・高橋恒和・山本晴雄・寺島大士・大竹義雄・藤本勝彦・唐木田勉・相沢隆雄・早川千吉郎・袖山正広・戸谷直喜・村田修一・矢野清隆・寺沢世夫・中村恵里香・渡辺誠一・西片功・北島正孝・田中哲弘・土川國人・大澤幸造・外谷俊男・平出勲・中村市治・佐藤善一・尾田美恵子・三井孝一郎・井上仁・市川武・梨本高之・前島啓一・三谷伸一・高野和彦・中村好成・中村守・古田新造・永井俊彦・下條正紀・本沢茂人・中澤次生・碓井真・北原勲・浦野義忠・大澤幸造



ATHLETIC　UNIFORM

株式会社　しなのメイト

〒389-0606　埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE　(0268) 81－1336
F A X　(0268) 81－1337

編集後記

丹波島橋より見る北アルプスの山々は、すっかり雪化粧の姿に変わっています。朝晩の寒さが、身にしみるのも間近かになり、インフルエンザの記事が目に止まるようになりました。

平成１６年の大会も無事終了。陸上競技場関係の皆様に感謝しながら、元気で新年を迎えられますように。

正月３が日は、駅伝大会を楽しみ、有意義に過ごしたいと思います。

“１ツ年取り幸せかな”（早川）

長野市陸協会報

第　７　号

平成16年12月15日

発行所　長野市陸上競技協会
発行人　浦野義忠
編集人　早川千吉郎

題字の“動き”は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

第53回県縦断駅伝　二連覇達成

長野市駅伝部　監督　田中哲広

去る１１月２７日、２８日の両日に、第53回長野県縦断駅伝競走大会が、晴天の中、行なわれ、長野県下１５チームが、郷土の期待を背に健脚を競い合った。

我が長野市チームは、昨年に続く優勝、また、１８年振りとなる連覇を目標に、選手、スタッフ、一丸となって取り組んでまいりました。

大会初日を迎え、１区には昨年に続き、キャプテンの高野を起用、大切なスタートをトップと１５秒差、区間４位と、上々の滑り出し、他チームの現役大学生と互角の走りで、２区以降を走る選手に弾みのつく走りをしてくれました。

２区で先頭に立ち、各チームのエースが集まる初日、最長区間２０．１kmを、大学生の西塔欣史選手が受け持ち、集中力のある素晴らしい走りで、ライバルチームとのタイム差を広げることができました。

レースの主導権を握ることに成功したものの、５区では塩尻東筑木曽チーム、８区に入って上伊那チームに先頭を奪われるも、選手は、しっかり自分の走りをし、９区で再びトップに立つと、１０区宮下、１１区徳竹選手の気迫ある走りで、初日のゴールテープを切ることができました。（２位上伊那チームと１′56″差）

２日目に入り、選手には「初日の差は考えずに今日も勝ちに行く」と話し、スタートの１２区、村松選手は、先頭と３秒差、区間２位と好走、１３区の市川選手は、足に故障を抱えての出場でしたが、しっかり我慢の走りでタスキを繋いでくれました。

１４区、中村守選手の区間賞、１５区、中村好成選手のガッツある走り、１６区、市川選手の区間賞と、この日もここまで順調に貯金を作るも、２位上伊那チームもくずれることなく、１９区に入って徐々に差を詰められ、最終２０区、アンカーにタスキが渡った時には、４６秒差となっていました。

「何とか逃げ切ってくれ！」ゴールで待つ選手たちの思いでしたが、ラジオ放送では「残り１kmを切ったところで、両チーム並んでいます」。皆、アンカー前島選手の元へ走っていきました。私も心が熱くなり思わず一緒に行こうとした時、選手から「田中さんはゴールで待っていて下さい」。この時ばかりは、監督であることを忘れ、選手と同じ気持ちになっていました。

前島選手の健闘むなしく、２日目は、８秒差の２位でしたが、選手たちの目標にしていた総合優勝、また連覇を果たすことができ、完全優勝こそ逃しましたが、それは来年の課題として、今後とも上のレベルを目指して練習に取り組んでまいります。

最後になりますが、この場をお借りして、お世話になった皆様方に心から感謝申し上げます。

喜びの長野市駅伝チーム

第53回県縦断駅伝に優勝して

横打史雄（松代中教）

まずは、今回、県縦断駅伝大会に参加するにあたり、長野市、長野市陸協、長野市駅伝部の皆様に温かく支えていただきましたことを深く感謝いたします。

新聞報道の通り、私は、昨年の県縦断駅伝で一週間前の骨折により出場ができず、チームに多大な迷惑をかけました。しかし、長野市チームには、その逆境を乗り越えられる強さと、他のチームに負けないチームワークがあります。それが、昨年の優勝につながりました。私は、このチームに所属していることを誇りに思えたと同時に、今年の県縦断駅伝への雪辱を誓いました。

今年は、エースの大久保さんが抜けたこと、選手の故障が相次いだことから、チームの状況はかなり厳しいものでした。だからこそ、私にとって昨年の借りを返すことのできる絶好の機会だと考えていました。それから、日々の練習や生活の取り組み方が、大きく変わりました。意識を高く生活し、意識の高い仲間と意識の高い練習を継続できたことが、好調を維持できた要因だと思います。

そして、今年また、長野市の底力を見せつけることができました。その一因になれたことを何よりうれしく思います。

県縦断駅伝・・親子で出場できて

市川　武

中村好成選手から市川武選手へ

過去の県縦断駅伝において、他チームで親子で走った方々を知っています。私もいつかは親子で走れたら良いなと思っていました。しかし、長野市は優勝を狙うチームであり、私の夢を叶えるには難しいと思っていました。

２年前、息子が中学３年の時、１度目のチャンスが来ましたが、この時は、息子が補欠で一緒に走ることはできませんでした。

そして、今回は、息子が１３区、私が１６区を任されました。息子が、３秒差の２位でタスキを受け、トップに出て５秒差をつけてくれたことをスタート前に知り、「やってくれた。次は自分の番だ」と思いました。私がタスキを貰う頃には、大差がついていましたので、「自分のベストを出そう！相手は自分」と言い聞かせてスタートしました。タスキを渡し、手元のタイムを確認すると、目標より良いタイムでした。後続を６秒離したことを知り、思わずガッツポーズ。バスの中で区間賞であることも知りました。

親子で参加できて、優勝に貢献できたことを嬉しく思います。欲を言えば、親子でタスキリレーができたら最高です。その夢に向けて頑張りたいと思います。

最後に、私はもちろん、息子が中学の時より面倒を見て下さいました駅伝部の皆様方、長野市陸協の先生方にこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。有難うございました。そして、これからもご指導の程よろしくお願い致します。

徳武雄次郎選手第1日目のゴール

県縦断駅伝ご支援ご協力のお礼

長野市陸上競技協会　会長　伊藤利博

第５３回、長野県縦断駅伝競走大会長野市チームのために多くの企業、また、個人の皆様方より多額の賛助金を賜り、誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。お蔭様で昨年に続き、２連覇を達成することができました。これも皆様方からいただいたご支援、ご協力のお陰だと深く感謝するところであります。

この喜びを心にしっかりと刻み、さらなる飛躍のために長野市陸協一致団結して頑張っていくつもりですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。なお、貴社の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

ご支援いただいた企業名、個人名を掲載させていただきます。　順不動

奥アンツーカ株式会社　株式会社長野ホテル犀北館
御宿記念館　中央館清水屋旅館　手打ちそば　二本松
長野スター商会　株式会社アイワ徽章　ホテル信濃路
株式会社日詰自動車板金　株式会社東洋安全防災
長谷川体育施設株式会社　大日方電気商会有限会社
芝上建設株式会社　中屋スポーツ
坂本伉史　古澤久四郎　依田邦雄　土川國人
藤本勝彦　碓井真　北原勲　浦野義忠　柴澤英雄

県高校駅伝・・都大路に向けて

長野日大高校　駅伝監督　山田憲一

こんにちは、長野日大高校駅伝チームです。１６年度長野県高校駅伝大会では、多くの皆様方にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。お陰さまで、女子駅伝チームは、１１月７日（日）大町陸上競技場において、アンカー小田切綾乃（３年）が最初に姿を現し笑顔のフィニッシュ、１時間１５分２１秒というチーム記録でゴールテープを切り、２位の松商学園高校に１分２４秒差をつけ、２年連続優勝を成し遂げることができました。これも選手の日々の努力はもとより陰ながらチームを支えてくださった方々の心温まる励ましがあったからこそと感じています。今年度もわが日大高校女子駅伝チームが２大会連続で都大路を走らせていただけると思うと、熱い思いで胸がいっぱいになり、感激もひとしおです。

思い起こせば１年前、初出場として乗り込んだ都大路では、５８チーム中５７位と全国大会の厳しさを嫌というほど思い知らされた大会となり、本当に悔しい思いをしました。今年は「全国に出場するだけではダメなんだ！」昨年の悔しさを力に変えて「必ずや都大路でリベンジを！」と、選手と共に誓い合い、１年間練習に励んでまいりました。年度当初から年４回の大学（日体大）の記録会への参加、そして、年６回の強化合宿を行ない、夏期休業中には４～５泊の合宿を３回（菅平高原→磐梯山→大町）と精力的に活動しました。特に磐梯山では、田村高校・市立船橋高校・那須拓陽高校といった強豪チームと合同合宿を行ったことで、身体的にはもちろん、精神的な部分でもかなり鍛えられ、成長したのではないかと思います。それもあってか、新人戦では武井千尋（２年）が、北信・県と1500m・3000mで優勝し、共に大会記録を破るものでした。また、村井晃名（２年）齊藤千聖（１年）も県大会で上位入賞し、記録会でも3000m９分台の自己記録を更新しました。今年も１・２年生中心の若いチームですが、競技力は昨年とは違い、全体的にレベルアップし、底上げも徐々に進んでいます。全国大会での目標は１時間１２分台で３０位内。どこまで今の自分の力を出し切れるか、思い切ったレースをしたいものです。

郷土の代表としての誇りを胸に、支えてくださる方々への感謝の心と、地域や学校、そしてチーム全員の願いを１本の襷に込め、力いっぱい走りたいと思います。今後もわがチームの活躍に期待してください。応援よろしくお願いいたします。

女子第１６回全国高校駅伝は１２月２６日（日）１０時２０分、京都市西京極陸上競技場を出発、全国４７都道府県の代表が師走の都大路を駆け抜けます。

第4回 ホープさん

長野日大高校２年 武井 千尋

今昔の道

私が高校に入学してからの約２年間は、とても早く過ぎていきました。そのような中で、中学時代では考えられなかったような大きな大会にも出場させてもらいました。私をここまで育てて下さった先生方を始め、多くの方々に感謝しています。

今年は、国体1500mと3000mに出場させていただきました。レース直前は、緊張というよりもむしろ興奮していました。集中力が少し欠けていたかもしれないくらいです。そんな状態でしたが、強い選手と一緒に走らせてもらい、1500mでは自己ベスト、3000mでは、当日以前からの疲れや天候に恵まれなかった面もありましたが、９分台で走ることができました。ここでは、全国と今の自分との差を実感することができたので、いい経験をさせてもらったと思っています。

チームとしては、都大路に２年連続で出場させていただくことになりました。昨年は分からないことが沢山あり、周囲の雰囲気にのまれてしまい、ただ大会に参加したという感じでしたが、今年はチーム自体の力も上がりました。あとは、個人個人が体調をしっかりと整えて、今年は勝負をしてきたいです。

来年は、インターハイ決勝に出場し、1500mで県高校記録の４分２３秒を目標とし、都大路では、さらに上を目指して頑張りたいです。

思い出の写真シリーズ 第５回

’91世界陸上長野キャンプ

松川高等学校　町田暁世

３年前、ソウルオリンピックに向かう諸外国選手のトレーニングキャンプと大会を長野市で開催し、長野オリンピック招致活動に多大な貢献をした経験も覚めない９１年、世界陸上東京大会でも長野トレーニングキャンプと陸上競技クリニックを多くの関係機関の協力を得て開くことができました。

この写真は陸協主催のパーティーの１コマです。

国際競技大会のノウハウは以前開催した日本・中国・カナダの大会や８８年のタイムトライアルで経験していたものの、やはり、外国人相手の日々の生活を何日も続けてサポートすることは、気苦労が多く、予測不可能な事態に直面する毎日でした。

特に、この大会では、当時、世界を震撼させた「ソ連でクーデターか？ゴルバチョフは」という場面がありました。オランダ選手団はともかく、ポーランド選手団にこの一報をいかに伝えるかがまず課題。急いで選手団長をロビーに呼んで、衛星放送を英語に切り替えて見てもらいました。彼の語学力は私たちと同様、中学程度で報道の中身はわかりません。「何があったの」と聞いてきたので、「His power is lost（彼は力を失った）」「Why?」「coupdetat（クーデター）」と。「何と言うことだ」という表情の団長に、調べてあったポーランド大使館の電話番号を教え、すぐにかけてもらう。興奮した声のポーランド語が飛び交う数分の会話の後、「ありがとう。心配するな。私たちは予定通りこのままトレーニングをして世界陸上に参加する」。洋画の一場面に出演している感じの中、ひと安心。

この写真の２日後の出来事でした。

このキャンプでは、今は亡きスポーツドクターの丸山先生と、トレーニングの諸課題やドーピングについて、オランダやポーランドのコーチと世界のトップ理論を学んだり、通訳で尽力いただいたＮＩＬＶ（ニブル）の方々と国際交流のあり方を議論したりと、組織やマンパワー等、収穫の多いイベントでした。

陸協のこれらの経験は、長野オリンピック成功への各分野の礎になったと言っても、過言ではないでしょう。